

## 第50回保問研全国集会（山形）の受付開始にあたって

全国保問研常任委員会三役

大地震・津波・原発事故と、これまで体験したことのないような大被害に東日本一帯が翻弄され続けています。このようななかで、保問研全国集会の開催が危ぶまれていました。こんな状況の中で「開催は無理ではないか」「被災地・被災者に迷惑をかけてしまうのではないか」「50周年を祝う気持ちにはなれない」「原発事故はどうなのか」というような率直な声も上げられました。

常任委員会としては、このような声を受け止めつつ、「うつむいては困難に立ち向かう勇氣は湧いてこない、みんなで集って励まし合って希望を語り合う場にしよう」ということで山形集会をあえて実施する方針を打ち出しました。現地実行委員会の熱いメッセージ「がんばろう！東日本 立ち上がれ！東北 みんなで集おう全国保問研集会・山形集会！」をテーマに開催することにしました。東北のなかでも開催県山形は震災が軽微であり、原発事故の影響も現在のところ報告されていません。会場や宿泊先は確保されていますし、アクセスについても集会当日には通常化する見通しです。

大震災の事実を踏まえて、全体集会・特別講座の内容については以下のように大幅な変更を行います。

(1) 50回集会記念事業の内容を一部変更しながら50回集会の総括を行いたいと考えます。50回集会の映像によるあゆみの企画を、「復興」をテーマにした保問研のあゆみをたどることにします。戦後の焼け野原から保問研が再建され、伊勢湾台風時のレンガの子どもたちの実践、阪神大震災から間もない二年後の兵庫集会、今回の東日本大震災と、保問研の運動は困難に立ち向かう「復興」の歴史でもありました。これまでの復興の歴史に学びつつ、今回の大震災にどう立ち向かうことができるのか、保育が果たす役割について考える場にしていきたいと考えます。内容については、今後、拡大常任委員会を開いて、記念事業委員会と常任委員会で相談して作り上げるようにします。

(2) 50回集会を振り返る保問研カフェを取りやめて、大震災のパネル展示に差し替えて、復興のための応援コーナーにします。大震災によって、多くの保育園・幼稚園が崩壊し、津波で流されてしまいました。被害にあった園の人たちが再建のための協力を訴える場所にします。みんなの力で再建を応援していきましょう。

(3) 特別講座「集会50周年記念プロジェクト」～あの頃の保問研～については、次回の広島集会で改めて企画することにします。

大きな困難を抱えつつも、今、被災地では「おだやかな」表情で生きる人々の姿を垣間見ることができます。街には「がんばろう」の貼り紙があちらこちらに貼られて、見ず知らずの人たちの対話がすすめられています。不足しているものを補い合う姿が日常化しています。「支え合って生きる」ことの意義を実感することができます。共催の仙台保問研が被災を受けていて十分なバックアップができないかもしれませんが、それでもガンバローとしています。不足しているところは集会参加者全員で補っていきましょう。

被災のあまりの大きさに足が遠のく参加予定の方がいらっしやるかもしれません。みなさんに訴えます。被災の現実をリアルにとらえて、そこから被災地を応援していきましょう。全国集会に参加していただくことが最良の応援になると私たちは考えます。